懸垂幕装置システム　製品注意事項

・製品注意事項・材質について・点検/メンテナンス

製品注意事項:

① 台風や風の強い日は、懸垂幕を下端まで下げて、ロープ等で縛って固定してください。風力によってワイヤーや、各部品などが破損し、落下等の事故の原因になります。

② 懸垂幕昇降の際、懸垂幕が上がりきった時点、下がりきった時点でウィンチのハンドルの回転をやめてください。巻きすぎによるウィンチの故障や、ワイヤーがウィンチのドラム内で空回りする原因となります。
※AK ウィンチの取扱説明書をお読みください。

③ 懸垂幕取付の際のリングキャッチの固定は、必ずスパナ等の工具を使って本締めしてください。

④ 弊社では材料のみの販売を行っており、施工は行っておりません。施工方法の不備や、お客様で製品を加工された場合に生じた製品の不具合や事故には対応できませんのでご了承ください。
※万が一、製品納品時に製品自体の問題が確認された場合には、代替品の交換やその他の対応を取らせていただききますので弊社までご連絡ください。

⑤ ステンレス製品は全く錆が発生しない材質ではありません。下記の「材質について」、「点検/メンテナンス」を参照し、定期的なメンテナンスをお願いいたします。

⑥ ホームページ・カタログに掲載されている製品は「業務用」です。「一般家庭用」ではありませんので製品の取り扱いには注意してください。
また、製品本来の用途以外では使用しないでください。想定外の事故の原因になります。

⑦ 各製品の項目に記載されている寸法数値には多少の公差がございますのでご了承ください。

⑧ 製品の使用荷重は、安全に使用するための荷重を表していますので、使用荷重を超えるような荷重をかけないでください。
また、衝撃が加わると変形したり破断したりする場合がありますので、急激な衝撃を与えないでください。

⑨ 人を吊ったり、人の頭上で使用するなどの人命に関わるような用途には使用しないでください。

⑩ 製品に変形や亀裂、磨耗等の異常が生じると破損する恐れがありますので、直ちに使用を中止し、製品を交換してください。

⑪ 製品のねじが緩んでいたり、ばねが利いていない状態で使用すると事故の原因になります。製品を使用する前に点検を行ってください。

⑫ 製品に過度のねじれや曲げを与えた状態で使用すると強度が低下し、破損する場合がありますので、正しい使い方で使用してください。

⑬ 製品を故意に変形させたり溶接したり等、製品を改造して使用しないでください。想定外の事故の原因になります。

⑭ ステンレス製品に異種金属を長時間接触させないでください。腐食の原因になります。

⑮ 酸やアルカリを用いる場所や急激な温度変化を伴う環境においては、製品の強度が低下する原因になります。そのような環境では使用しないでください。

- **上記の注意事項を熟知した上で当社製品をお取り扱いください。また、誤った使用や不適切な取り扱い等によって生じた損害については、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。**
- **製品改良のため、予告なくサイズや仕様等を変更する場合があります。あらかじめご了承ください。**
- **各製品の画像は実際の色とは異なる場合があります。あらかじめご了承ください。**

材質について:

■ステンレス鋼　鋳鋼品

材　質	相当する鋼材	特長および用途
SCS1	SUS410	SCS13 より強度はあるが耐食性に劣る。 ローラー、機械部品など。
SCS2	SUS420J1	SCS1 より焼入れ効果が大きく硬度あり。 製紙関係、水処理関係など。
SCS11	SUS329J1	二相組織。耐摩耗性、耐孔食性に優れている。 海水用ポンプ、各種産業部品など。
SCS13	SUS304	最も汎用的な材質。 バルブ・ポンプ、建築資材、各種産業部品など。
SCS14	SUS316	SCS13 より耐食性に優れている。 バルブ・ポンプ、食品機械、各種産業部品など。
SCS16	SUS316L	SCS14 より耐粒界腐食性に優れている。 化学、薬品機械部品など。
SCS18	SUS310S	高温耐食性に優れている。 化学機械部品など。
SCS24	SUS630	高い強度を持ち耐磨耗性に優れ、耐食性あり。 製紙部品、機械部品など。

ステンレスは、表面に形成される独特の保護皮膜によって腐食に強い材質です。
保護皮膜は酸素が触れている間は優れた耐食性を示す性質を持っています。
ステンレスの表面が汚れている場合、酸素との接触が妨げられるのでサビが発生することがあります。サビない金属がではなく、サビにくい金属という認識をお願いいたします。

サビが発生しやすい状態
●塩素系洗剤がステンレス部品に付着した場合。
●海岸沿いなどで塩分が付着する場合。
●ばい煙、排ガス、塩酸、温泉蒸気、火山の噴煙などが付着した場合。

「もらいサビ」
上記のような状態では、ステンレスが「もらいサビ」を起こす可能性があります。
他の鉄製製品（釘やボルト、ナットなど）のサビが表面に付着したり、土挨の中の微細な鉄粉がステンレスにこびりつき、雨水などが原因でサビてこびりつくのが「もらいサビ」です。もらいサビは専用クリーナーなどでこすり落としてください。（表面に傷がつくことがあります。）
「もらいサビ」が落ちない場合は、サビが進行してステンレス自身にサビが生じたものと考えられます。一旦発生したサビは落とすことが難しいので、ステンレスの汚れに注意して日頃からこまめにお手入れをしてください。本格的なサビの発生を防ぐことができます。

「電食」
例えばステンレスワイヤーロープにアルミ製クランプ管を使用するなど、ステンレスに異種金属を接続して使用した場合、使用する環境（海水中や水気の多い場所など）によっては異種金属接触腐食（ガルバニック腐食）が生じる恐れがあります。この場合ステンレスはアルミよりも腐食電位が上位の金属であり、下位のアルミの方に腐食が起きてしまいます。これを「電食」と言います。
ステンレス製品に金具を接続する場合は、同等鋼種のステンレス金具を使用することをお勧めします。

点検/メンテナンス:

＜点検＞
（1）ワイヤーロープに異常がないか。（摩耗、断線、キンク、つぶれ、ほつれ、腐食など）
（2）AK ウィンチに異常はないか。（AK ウィンチ取扱説明書参照）
（3）各部品や連結金具に異常はないか。（外れ、ねじの緩み、欠損、摩耗による割れなど）

＜メンテナンス＞
メンテナンス方法に関しては、懸垂幕装置システム取扱説明書をお読みください。

＜維持管理・清掃方法について＞
（1）汚れは、中性洗剤やシンナーで拭き取ってください。
（2）表面に付いたホコリや鉄粉などは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。

(3) 金属製ブラシや砂入りの粗い洗剤は、キズの原因となりますので使用しないでください。
(4) 酸性（例えば塩酸、硫酸、硝酸、苛性ソーダ）あるいは、これらを含むタイル、石材等の清掃薬剤は変色を起こす恐れありますので、
使用しないでください。
※サビがひどい場合はステンレス用サビ落としの専用クリーナーを購入してください。
また、専用クリーナーをご使用の際は注意書きをよく読んでからご使用ください。

その他ご不明な点がございましたら、当社までお問い合わせください。